

石川県における地域防災力の向上

指導教員 金沢大学 講師 原田魁成

参加学生 2年 西村省吾
 1年 喜多見浩介 大澤帆夏
 ほか 金沢大学ボランティアさぼりとステーションメンバー

この度の活動にご協力いただきました NPO エコラボの皆さまに感謝申し上げます。
また毎週のように被災地復旧・復興のためにご尽力されている金沢大学ボランティア
さぼりとステーションの皆さまに心からの敬意を表し、本事業を推進する上でも度々
お力添えいただきましたことに厚く御礼申し上げます。
金沢大学ボランティアさぼりとステーションの活動報告は以下の QR コードからご
確認いただけます。

Instagram



Twitter



金沢大学 HP



令和6年能登半島地震発災以降における 金沢大学でのボランティア活動と地域活性活動について

金沢大学ボランティアさぽーとステーション
顧問 原田 魁成(金沢大学 経済学経営学系 講師)
学生一同



■ボラさぽの成り立ちと主な活動

- 2013年5月
「能登金沢足湯湯」(金沢大学生を含む一般有志)が
岩手県陸前高田市を初めて訪問
- 2013年8月
「継続的に支援を続けていきたい」との思いからサー
クル立ち上げに動き、大学からの資金援助が実現
- 2013年12月
「金沢大学ボランティアさぽーとステーション
(ボラさぽ)」が発足



■令和6年能登半島地震以降の動き

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
避難所支援					1/12-田上公民館 1/13-三友会館			2/14以降は 個人参加			
被災地派遣	2/22-能登町 月3-3回実施		七尾市 能登町		輪島市・重蔵神社、珠洲市、能登町					輪島市	
継続活動	3/11-能登町中 いずれも月1-2回で実施			「金沢行くまいか」交流会(月曜) 「金沢あつまらんけ〜の」(10月以降は毎週参加)				「内閣」寄ってきまっし交流会(土曜) 「穴水ほしぞら」 子ども支援等			
被災地・子ども支援他					6/19-継続中			被災地での毎日スタッフや支援物資の配布(重蔵神社)など			

活動内容 (1/1-12/31)	参加 人数	実施 回数
避難所での 生活支援	104人	346回
被災地での 災害支援活動	814人	88回
継続活動	212人	75回
食き出し支援 避難所等 子ども支援等	140人	30回
合計	1,270人	229回

1/1~12/31までにボラさぽ以外の学生や教職員の方を含む、延べ1,270名の方が活動に参加

■被災地派遣

○LINEのオープンチャット機能でボラ
ンティアの調整を実施
→12/31時点で710名以上が登録
○派遣時に参加者全員へ活動に関わ
る留意事項をまとめた「しおり」を準備
○ボラさぽメンバーには緊急時の対
応や応急処置法等の事前研修も実施
○県内外の大学や支援団体に声掛け
し積極的に合同ボランティアを実施中



七尾市



県立看護大や金城大学とも
合同支援活動を実施

能登町



早稲田大学とも
合同支援活動を実施

珠洲市



学内の教職員や有志ボラン
ティア団体と合同で活動を実施

輪島市



お社の解体や物資貯蔵庫
テナの設置、支援物資の
配給活動などを実施

水害対応(輪島市)



・屋内の家財撤出、泥出し、清掃
・屋外駐車場や側溝の泥出し
・生活支援及び水害支援物資の
配布や運搬
・農林業の復旧支援 ...etc.
多方面での支援を実施(継続中)

■傾聴活動

○金沢市内への2次避難されている
方や被災地に居住されている方々
への傾聴活動を実施中
○3つの傾聴活動を主催・共催し、被
災者の方に寄り添った企画を実施
○ワークショップや足湯&ハンドマッ
サージなども取り入れる



行くまいか！ 交流会[金沢市]



あつまらんけ〜の！ [金沢市]



寄ってきまっし 交流会[内灘町]



ほしぞらカフェ [穴水町]

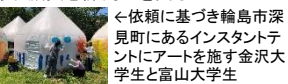


仮設住宅訪問 [輪島市]



■その他の活動

○被災地及び被災された方への支援
を継続することで交流の輪が拡大
○支援活動を通じて得た経験を広報
することで更なる支援者増加及び防
災・減災意識向上を図る



街頭募金活動



石川県災害ボランティア協会、石川県防災士会、
新神田校下少年連盟の方々と合同実施
金沢駅前地下学学生・教員が募金を呼びかけた。

子どもの遊び・学習支援



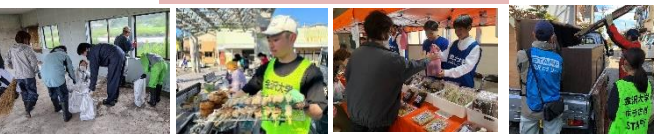
NPO法人リエラや災害支援NPOありんこらと連携し、
料理の共有やかけこなどを実施した。
今後は子ども支援団体と連携し、2次避難している児
童や被災地で生活する児童への支援も計画

2次避難者の方との交流



炊事や料理の共有などを通じて2次避難者の方の「楽
しみ」を支援
共通の話題からコミュニケーションが加速し、より深
い交流が行われるようになった。

学外支援団体との積極的な連携



石川県中小企業家同友会や石川県災害ボランティア協会の方々と連携し、被災地にある海水浴
場の清掃や炊き出し支援、能登地元産品の金沢出張販売などを実施した。他に輪島復興支援団
体リガーレーや金沢エナジー株式会社と継続的な合同災害ボランティア活動を実施している。

災害支援の講演活動



金沢大学における令和6年能登半島地震調査・支
援活動報告会や石川県中小企業家同友会、ロータ
リークラブ、トルコ青年スポーツ省等への金沢大学
におけるボランティア活動報告等を実施した。

防災・減災教育



金沢市田上町自主防災組織との避難所運営の在り方
に関する意見交換や親子を対象とした居住地域におけ
る災害危険個所のマッピング活動などを実施した。
今後は防災バッグの中身や使い方について講演予定

地元文化の体験と継承



千枚田での収穫体験や陶器配布等を通
じて能登の伝統文化を体験
輪島市重蔵神社主催のキリコ祭り
に担ぎ手として参加、性別や国籍
問わず地元の方と共に祭りを盛り
上げた

被災地復興に向けた追悼と願い



2025年元日、重蔵神社にて被災された方を追悼する
竹灯籠を点灯、多くの方々にとっての癒しとなった。

■情報発信

ボラさぽの活動内容は以下からご確認いただけます



1. 活動の要約

本事業では他大学や他団体らとの連携ネットワークの構築を基に、石川県内での地域防災力向上を図った。連携ネットワークを構築する上で、令和6年能登半島地震及び令和6年奥能登豪雨に伴う金沢大学ボランティアさぼーとステーション(ボラさぼ)との合同災害ボランティア活動を他大学と計17回、民間企業と計7回(いずれも2024年12月31日時点)実施した。またNPOエコラボを含む他大学及び他団体との防災教育イベントを計4回実施した。

2. 活動の目的

令和6年能登半島地震及び令和6年奥能登豪雨に伴う被災地及び被災者の方への継続的な支援を行うためには他団体との連携が不可欠である。また団体ごとに有する固有の強みを融合させることで、より多面的な被災地復旧及び復興あるいは被災された方への支援が可能となる。従って各団体との合同ボランティア活動等を通じた連携ネットワークの構築と、それらの横の繋がりを活用した地域全体での防災力向上を活動の目的とする。

3. 活動の内容

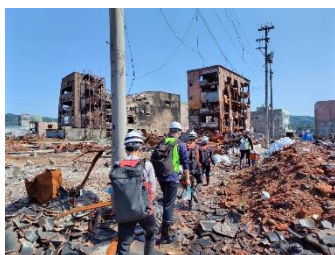
他団体との合同災害ボランティア活動や傾聴活動、講演活動などを実施した。また防災力向上のための活動として、NPOエコラボと連携し、熱源が限られた被災地でも活用可能で、太陽光を活用した「ソーラークッカー」による食品加熱体験を実施した。他に地域の危険個所を探索し、それらを地図上に記録する「きけん度マップ作り」、防災士監修の下で子どもたちと一緒に防災を学ぶ「防災運動会」、防災バッグの中身や使い方について学ぶ民間企業主催の「そなエナさい」などを実施した。

4. 活動の成果

金沢大学ボラさぼを通じた被災地及び被災された方への支援活動実績は以下の通りである。なお下記の数値は2024年12月31日時点であり、ボラさぼ構成員の個人活動も含まれる。

- ・被災地災害ボランティア活動：814名、88回(輪島市を中心に七尾市、能登町、珠洲市など)
- ・傾聴活動：212名、75回(金沢市、内灘町、穴水町など)
- ・避難所での生活支援：104名、36回(田上町、1.5次避難所、輪島市など)
- ・その他活動(炊き出し支援や子ども支援等)：140名、30回

以上より合計1,270名の学生・教職員らがボランティア活動に参加した。なお他大学との連携実績として、金沢工業大学、石川県立看護大学、金城大学、北陸大学、石川工業高等専門学校、早稲田大学、熊本学園大学、東北大学などが挙げられる。またボランティア活動を通じた交流を契機に、能登地域の伝統行事であるキリコ祭りへの参加や被災者追悼企画の運営など地域活性に関わる活動も行った。他にも、ボランティア活動と被災地の現状に関する講演活動を計5回(金沢大学第2回・第3回のと里山里海未来創造シンポジウム、ロータリークラブ、だいせん聴覚高等支援学校、早稲田大学)実施している。



輪島市朝市通りでの災害ボランティア活動の様子



重蔵神社夏季大祭に参加する金沢大学学生



2025年元旦に輪島市重蔵神社で金沢大学学生らが作成した竹灯籠を点灯

本事業に関わる地域防災力向上イベントとしては以下の通りに実施した。

○「みんなで作ろう！新神田きけん度マップ」

- ・実施日・場所：2024年10月26日(土) 新神田公民館
- ・主催：金沢大学ボランティアさぽーとステーション、新神田校下少年連盟協力(協力)
- ・対象：金沢市新神田地区居住の親子(大人5名、子ども14名の計19名)
- ・活動内容：新神田公民館周辺をボラさぽメンバーと親子を含む3つのグループに分かれて探索し、被災時の避難場所や倒壊危険箇所、水害発生危険箇所などを記録した。公民館へ帰着後、グループごとに探索中に発見した箇所について「何がどう危険で、どう対処すればよいか」の観点から話し合い、その後、子どもたちによる発表会の機会を設けた。企画終了後のアンケートでは19名中17名が、同企画について防災を考える上で「参考になった」と回答し、「何気なく歩いていた道に対する見方が変わった」や「避難場所やそこにある備蓄なども確認できてためになった」などの感想が得られた。今後参加してみたい防災イベントでは「防災グッズの中身や使い方」、「地震体験」、「防災食の試食会」などが挙げられた。



校区内の避難・危険箇所を一緒に探索する学生と参加者親子



探索後にどこが何が危険であったかを話し合う様子



作成したきけん度マップを発表する参加者親子

○ソーラークッカーを用いた試食会と応用可能性

- ・実施日及び場所：2024年11月3日(日) 金沢大学角間キャンパス(金大祭開催期間)
- ・主催：金沢大学ボランティアさぽーとステーション、NPO エコラボ
- ・対象：金沢大学の大学祭(金大祭)へ訪問した学生や一般の方々
- ・活動内容：屋外にてソーラークッカー機器を設置し太陽光を用いた食品の加熱と試食会を行った。参列者に対し、NPO エコラボの中村早苗氏から同機器のエネルギー吸収効率性などの機能面に関する説明と、災害時には熱源が限られており、太陽光などの自然エネルギーを活用することで飲食物品の加熱や足湯などの応用可能性がある旨の説明がなされた。



ソーラークッカーの準備をする
NPO エコラボ中村早苗氏



ボラさぽメンバーと中村早苗氏との集合写真

○「親子でつくろう体験の和～能登地震から考えること～」

- ・実施日及び場所：2024 年 12 月 15 日(日) 国立能登青少年交流の家
- ・主催：新神田校下少年連盟、金沢大学ボランティアさぼーとステーション(協力)
- ・対象：金沢市新神田地区居住の親子(大人 3 名、子ども 3 名の計 6 名)
- ・活動内容：ボラさぼメンバーと親子がグループとなり、缶バッチづくりや能登ヒバ箸作りなどで交流を図った。その後、防災士の指導の下で震災時の身体の守り方に関する講習や担架の作り方、防災バッグの作り方、仮設トイレの作り方など、防災や有事の際の対応等について子どもたちと一緒に身体を動かしながら体験した。最後に防災に関する〇×クイズを実施し、ボラさぼメンバーが解説をしながら防災について学習した。



仮設トイレと一緒に作成する
生と参加者親子



防災バッグに詰めるものを一緒
に考える様子



防災クイズを一緒に考えている
様子

○「金沢エナジーそなエナさい～親子で考える防災への備え方～」

- ・実施日及び場所：2025 年 1 月 19 日(日) イオンモール白山
- ・主催：金沢エナジー株式会社、金沢大学ボランティアさぼーとステーション・金沢工業大学防災・減災プロジェクト SoRA(協力)
- ・対象：イオンモール白山を訪問した親子(低学年向け)
- ・活動内容：「親子で考える防災」をコンセプトに、参加親子向けの講演として「考えてみよう！もし今地震が起きたらどうしよう？クイズ」を実施した。防災士の資格を持つ学生が震災時に命を守るポーズ(ダンゴムシポーズ)の紹介や揺れが収まった後の行動、避難中の危険、有事の際に備えた防災バッグの作り方とおすすめの備品などについて講演した。他にボラさぼが 2024 年に実施したボランティア活動の報告や金沢工業大学が実施した防災クイズへの参加、金沢エナジー株式会社が企画した、手回し発電ライトや新聞紙で作る防災グッズなどのワークショップへの参加などを実施した。



金沢工業大学 SoRA と一緒に防災
に関するブースを展開する様子



クイズ形式で防災について講演
する金沢大学学生



参加された皆さんとの集合写真

5. 今後の活動計画

2025 年 1 月時点においても被災地は依然として復旧活動中であるため、大学間及び他団体と連携した支援活動を行いつつ、現地で居住するあるいは金沢等へ 2 次避難された被災者の方々への支援も継続して行う。

また被災地の風化防止及び能登復興に向けて、被災地の現状や現地のニーズ、能登半島地震の経験を踏まえた防災の在り方等について、県内外への講演活動を積極的に実施し、さらに連携ネットワークを拡張させる。

6. 活動に対する地域からの評価

防災教育の実施についてはアンケート結果からも高い評価を得た。また被災地での活動では、能登半島地震発災以降金沢大学として 85 回以上の災害支援及び地域活性活動を行っている輪島市において、同市での災害支援活動及び心の支援活動を精力的に実施している団体らが参集した共働支援センター(仮)の設置が検討されており(2025 年 1 月 14 日時点)、そこに大学として唯一招待されるなど地域においても一定以上の評価をされている。他に被災された方々との傾聴活動ではいずれの企画でも毎回 10 名程度の方々が参加され、学生らとの交流を楽しみにされている様子が伺える。